

惠声会会報

第28号



上野学園 石橋メモリアルホール © 田中宏明

Contents

新理事長のご挨拶	3
新学長のご挨拶	4
退任のことば〔前学長〕	5
恵声会長のご挨拶	5
石橋裕学園長先生ご逝去	6
石橋益恵先生記念コンサート	8
石橋益恵ピアノ奨学金について	9
恵声会主催演奏会	11
支部だより	15
会員だより「窓」	22
大学音楽学部音楽学科より	28
短期大学部音楽科より	28
学園インフォメーション	29
ホール／音楽教室からのお知らせ	31
恵声会本部活動報告	32
会計報告	33
各係からのお知らせ	34
恵声会役員	34
学園職員だより	35
編集後記	35
恵声会（音楽）支部連絡先	裏表紙



新理事長のご挨拶

学校法人上野学園 理事長
上野学園大学短期大学部学長

石橋 香苗



平成28年6月より理事長となりました石橋香苗でございます。

惠声会の皆さま方におかれましては、日頃から母校のために、さまざまにご協力をいただき本当にありがとうございます。卒業生である皆さま方が力を合わせ、母校のホールあるいは地元で演奏会を開催されたりと、いつも嬉しいお知らせを頂き、嬉しく思っております。

学園は今、守るべき佳き伝統は守りつつ、新しい風を取り入れるべく、少しずつですが変革を進めております。2007年の校舎棟竣工および全学における男女共学制の導入、そして2010年の新ホール棟の誕生—これらをハードの変革とすれば、今はまさにソフトの部分での取り組みを進めていると言えるかもしれません。

2017年は、石橋裕先生がご逝去されるという悲しい年になりました。しかし裕先生の思いはもちろんのこと、藏五郎先生、益恵先生のご尽力、学園への思い、佳き伝統を大切に受け継ぎながら、これからも大切に次世代を見据えながら、新しい上野学園を育ててまいりたいと思っております。

そのためには卒業生である皆さま方のご支援とご協力が不可欠です。皆さまお一人おひとりがお元気で日々過ごされ、ご活躍をされつつ、母校のことを見守っていただければ幸いに存じます。

どうぞ母校の演奏会等にも是非とも足をお運びくださり、後輩たち、そして母校をお見守りいただくと共に、今後も母校を盛り立てていただけますよう、切にお願いいたします。





新学長のご挨拶

上野学園大学長
惠声会名誉会長

皆川 弘至



今年度より学長に就任致しました。かけがえのない伝統を誇る名門校の一員であることは大変名誉なことと、日々身の引き締まる思いしております。

小生は、音楽雑誌編集長、音楽プロデューサー、レコード会社経営などに携わった後、いくつかの大学で20年近く教鞭をとっておりました。そうした企業生活、大学生生活の間、絶えず音楽を携えて生きる喜びを心の支えに、音楽・芸術を生業とし、齢を重ねて参りました。

仕事や教育活動を通して、国内外の巨匠達から学んだ様々な事柄や、諸先輩から教えを賜った大学運営の詮術を活かし、本学はもとより、延いては音楽界の発展の為に身を粉にする所存です。

私事ですが、先般ベートーヴェンの散歩道であったウィーン郊外のハイリゲンシュタットへ足を運んだ折、小川の傍らの枯れ枝を一本拾い上げ、記念のために持ち帰りました。その枝は今でも自宅デスクの一輪挿しにあり、他の花器にある色とりどりの花々より、いっそう瞭然と映えている様に思えてならないのです。何故なら、その枝に目をやる度に、苦悩の中で数多の名曲を紡ぎ続けた、家庭を持たない孤独な老寂ろうじやくと、その気高さに触れる喜びを得られるからなのです。

ご存じのとおり、本学のみならず、大学の置かれた環境は、少子化も手伝い大変厳しいものがあります。しかし苦境を成功への一里塚と捉え、旧套を脱し焦眉の課題を克服し、堅実に改革を進めたいと考えております。孤高のベートーヴェンの偉業を考えるなら、決してあてどのない彷徨ではないはずです。

ぜひ、惠声会の皆様の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。





退任のことは

前上野学園大学長
前恵声会名誉会長

船山 信子



恵声会の皆様、様々な人生のステージでご活躍のことでしょう。私こと、平成29年3月末日をもちまして学長職を退任いたしました。昭和44年以来、約半世紀にわたり、皆様と「音楽に生きる」というこの上ない幸せを分かち合えたことは、何よりの喜びでございました。また、「自覚」をモットーとする学園の豊かな伝統と、21世紀の新しい息吹の「共創」を目指して、及ばずながら心を砕いて参りました。この間に、先般惜しくも幽明境を異にされた石橋裕学園長より、大学人、また人間として多くを学ばせて頂きました。1年前に開催しました第1回ホームカミングデイで、お懐かしい方々と再会を果たせましたのも忘れ得ません。

ここに、歴代の恵声会長を始め多くの会員の皆様にご交誼いただきましたことに、深甚の感謝を申しあげます。そして、これまでに増して母校を温かく見守り、お力を頂きますようお願いして止みません。最後に、恵声会のますますのご発展と友好、また会員お一人おひとりの個性豊かなご活躍とご多幸を、今後も心からお祈りしてまいります。



恵声会長のご挨拶

恵声会長 **庄 智子**

会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

この3年間、毎年のように日本各地で災害が起き、会員の皆様は本当に大変なことだったと思います。天災は防ぎようがありませんが、日本人ならではの被害に備える心構えを日頃から忘れずにいたいと思います。さて、近況をご報告申し上げます。恵声会本部では主軸としております演奏会として第34回定期演奏会、毎年櫻樹祭内で行っております新人演奏会を開催致しました。新人演奏会は近年申込みが増え新卒業生の演奏への意欲をヒシヒシと感じております。櫻樹祭の催しとしてももう一つ開催しているブティ・コンセールも徐々に定着しつつあり、今年度はソロ、デュオ等の他コーラス隊がサロンコンサートに大人数で参加して下さり、また満席となったエオリアンホール演奏会と2本立てで賑やかに開催できました。これらの演奏会行事の他、特に印象に残るものとして平成29年1月、学校から大きなご協力をいただくことができグラン・コンセールを開催することができました。詳細は演奏会だよりをご覧くださいと思います。そして各地では創立10周年、30周年を迎える支部がそれぞれ記念演奏会を開催いたしました。新人演奏会やミニコンサートなどコツコツと活動の場を広げている支部、在籍会員が少なく大きな活動はできないけれど地域で活動する支部会員や同窓生を応援したり、演奏会の構想を練るなど支部内での親睦を深め、中には支部長おひとりで同窓生の為に努力を惜しまず活動している支部もございました。地域によって大変大きな差が生じますが、特に小さな支部は活動を継続することさえ難しい中、不断の努力を注いでくださっていることに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。一人ひとり、理想や沢山の意見がありますが、実りある未来に向かってお互いに寄り添い、協力しあっていける同窓会でありたいと思います。



石橋裕学園長先生ご逝去

平成29年1月24日午後2時、石橋裕学園長先生が永眠されました。87年のご生涯でした。通夜・告別式は先生のご意思とご家族のご意向で、近親者のみで執り行われました。学園長先生はお辛い闘病生活の影もなく、安らかに美しい笑顔でいらっしゃいました。

同年6月7日には松平恒忠上野学園後援会長が発起人になられて、偲ぶ会—石橋裕をめぐる「ことば」と「音」A Celebration of the Life of Hiro Ishibashi through Poetry and Music—が上野学園講堂（石橋メモリアルホール）で開催され、生前に先生から薫陶を受けた方々、公私に亘ってご交誼のあった方々が集い、先生のお人柄やご功績の一端を、先生の詩や先生にゆかりの音楽を通して、共にお偲びいたしました。

当日はまず山根篤氏（東京パイプバンド・パイプメジャー）のバグパイプの演奏と共にご幼少時から晩年に至るご生涯がスライド上演されました。その後オルガン演奏（和田純子*）、有村祐輔元大学教授の指揮による合唱（山内房子*sop、渡邊淳子*mez、坂口寿一*ten、篠木隆明*bar）の他、石橋先生に



偲ぶ会：石橋先生の詩を朗読される上村京子先生と演奏前に『風の輪』についてお話しになる小林仁先生



石橋 裕先生
(1929-2017)

献呈された音楽（福島和夫『風の輪』）が初演時奏者である小林仁元非常勤講師（東京藝術大学名誉教授）により演奏され、上村京子名誉教授による石橋先生の詩（私のちいさなきいろのきつね／月の出／アヴィラの城壁／女たち／ねぶた／遠い国から／私の時間）の朗読がありました。（*惠声会員）

下に山内久明元非常勤講師（東京大学名誉教授）の悼詞より、学者・詩人として石橋先生について言及された部分と、プログラムに寄せられた有村先生の文を掲載します。

悼詞（抜粋）

山内 久明

[略] 先生は長年にわたり上野学園の長として、才能豊かな音楽家をはじめ、数え切れぬ有為な人材を育て、社会に送り出されました。他方、日英文化交流、国際アイルランド文学協会（IASIL）の創立・運営など、多大な学術的・文化的・社会的貢献に尽くされました。[略] 石橋裕先生という一つの人格の中では、「詩人・学者・教育者」という三つのアイデンティティが統合されております。[略]

先生は慶應義塾大学において、「学匠詩人」（scholar-poet）と呼ばれる西脇順三先生から学ばれました。学者にして詩人、詩人にして学者である西脇先生こそは、裕先生にとって最高のお手本となりました。

もう一つ重要なのは、福澤諭吉研究のために来日し、慶應義塾大学を拠点としたCarmen Blacker博士と、西脇先生を介して交流が始まったことでした。裕先生が大学院修士課程在学中に、3年間、Oxford大学と、つづいてCambridge大学に留学され、そこで著名なW. B. Yeatsの権威T. R. Henn博士の指導を受けられたことは、裕先生の学問的方向性を決定づけました。[略] 帰国後の1957年に修士課程を修了、そのまま博士課程に進まれ、1960-62年再び渡英、Cambridge大学東洋学部日本語講師（Lector）を務められ、同時に英文学研究をさらに深められます。

以上のような経歴と研鑽の総決算として、W. B. Yeats研究により、慶應義塾大学から文学博士号を授与されます。第二次大戦後、新制度になって以降、慶應における英文学分野での文学博士第一号であったと理解いたします。[略]

裕先生の詩集は7冊にのぼります。本日は上村京子先生の心のこもった朗読に聞き惚れました。[略] 詩は意味だけでなく音と共演するという裕先生の卓見には、日本の伝統詩歌と同時に西欧の詩に精通され

た造詣の裏打ちがあります。Kathleen Raineといえば、かつてCambridgeで英文学を学び、自ら詩人であるだけでなく、神秘的詩人で版画家のWilliam Blake研究の大家であり、古代に遡るヨーロッパ神秘主義思想を究めた人で、Blacker博士とも親交がありました。そのRaineが裕先生に対して、「あなたが詩を書かなかつたら、それは罪悪である」と宣告したことは、何という名誉でしょうか。若い日の留学と旅の産物として、裕先生の詩は、スペイン、インド、アイルランド各地に及びます。Skelligは福島和夫先生と一緒に訪ねられ、裕先生のことばに合わせて和夫先生の曲が生まれ、裕先生に捧げられました。愛に満ちた「ことばと音」のみごとなコラボレーションです。

裕先生の詩「宇曾利」は、黛敏郎によってオラトリオとして作曲され、1959年に上演されました。アイヌ語で「湾」や「入り江」を意味する「宇曾利」は、「宇曾利湖」のある「恐山」と下北半島一帯を指します。第一部「海」は、海の男の精神風景を描き、第二部「祭」は土俗信仰を扱い、第三部「恐山」はまさに死者の霊との交信を扱い、作品全体をとおして、裕先生とBlacker博士の共通の関心である、文化の基層としての集会的無意識の世界が展開されます。そしてこの作品の場合には、ことばの意味と音楽性とのコラボレーションだけでなく、詩と音楽とのコラボレーションによって作品が立体化されます。

英語のMuseと、その元にあるギリシャ語のMousaは、詩的靈感の源泉と同時に、音楽的靈感の源泉を意味します。詩人として、教育者として、詩と音楽のコラボレーションに携わった裕先生は、まさにMuse/Mousaの象徴でありました。[略]

石橋裕先生と英国、そして古楽

有村 祐輔

本年1月24日に永眠された石橋裕名誉学長先生の「偲ぶ会」を古楽で行いたいので手伝って欲しいとの依頼があったのは、去る3月の中頃でした。

裕先生のご冥福をお祈りするには、どのような古楽が相応しいかを考えた末に思い浮かんだのが英国の音楽です。先生と英国との付き合いは、先生がオックスフォードとケンブリッジの両大学で勉強されて以来の長年にわたるものでした。教育者としての先生には、英国の大学教育がひとつの理想の姿としてあったように思います。その英国の名門ケンブリッジ大学から世界的に有名なキングズ・カレッジ合唱隊を1978年に初めてわが国に招く事業を果たされたのが裕先生でした。わが国の合唱界のみならず、音楽界にも大きな衝撃を与えるほどの画期的出来事でした。指揮者のフィリップ・レッチャー氏は先生の友人でした。私は先生からこの合唱隊の通訳兼リエゾンを仰せつかり、約2週間、彼らと行動を共にする中で、音楽家としてばかりでなく、生き方についても彼らから多くを学んだものです。上野学園創立70周年記念として1984年に先生が企画された「1600年前後の英国の音楽とその文化的背景」と題する事業も、アントニー・ルーラー率いるコンソート・オブ・ミュージックという当代屈指の古楽アンサンブルやオックスフォード大学の英文学者アン・エリオット女史、ケンブリッジ大学の音楽学者リチャード・マーロウ氏を英国から招いての演奏会、講演、シンポジウムを通して、ジョン・ダウランドの音楽を「歴史的俯瞰図の中にとらえよう」とするものでした。この記念事業が特にわが国古楽界に与えたインパクトは計り知れないものがあつたようです。ここでも私はリエゾンを仰せつかり、未熟な我が身を晒しながら多くを学びました。

さて、以上のような裕先生の姿勢からもわかるように、上野学園という教育機関の目指す方向の一つとして英国と古楽という2本の柱が先生の思いの中にあつたのではないかと思います。

本日の古楽として演奏されますのは、1695年3月5日にロンドンのウェストミンスター・アビーで執り行われたメアリー女王の葬儀で演奏されたとされるヘンリー・パーセルのモテット（Thou knowest, Lord, the secrets of our hearts/ Man that is born of a woman）です。この曲は同年世を去ったパーセルの葬儀でも演奏されたとされます。また、この他にオルガン曲として、バッハ（Kyrie, Gott heiliger Geist, BWV671/ Sonatina from Actus tragicus, BWV106）とクーナウ（Herzlich tut mich verlangen）の曲が演奏されます。長年にわたって上野学園の発展のために尽力されてきた石橋裕元学長先生のご冥福を祈りながら、この音楽を先生の霊前に捧げたいと思います。（「偲ぶ会プログラム」より）

石橋益恵先生記念コンサート

第22回石橋益恵先生記念コンサート

— 佐藤裕子 / 佐々木祐子 ピアノ・リサイタル —

- 2015年2月28日(土) 午後3時30分開演
- 上野学園 石橋メモリアルホール
- 主催：学校法人 上野学園

出演者 佐藤 裕子 (ピアノ) / 佐々木祐子 (ピアノ)

プログラム

[連弾]

ドビュッシー：小組曲

[独奏]

佐々木祐子

メル・ボニス：メリザンド

ショパン：バラード第3番 作品47

佐藤 裕子

シューベルト：即興曲 作品142-3

[2台ピアノ]

ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲 作品56b

第23回石橋益恵先生記念コンサート

— 古賀大路 / 高橋優介 ピアノ・リサイタル —

- 2016年2月27日(土) 午後3時30分開演
- 上野学園 石橋メモリアルホール
- 主催：学校法人 上野学園

出演者 古賀 大路 (ピアノ) / 高橋 優介 (ピアノ)

プログラム

[独奏]

高橋 優介

ブラームス：3つの間奏曲 作品117

ラフマーニノフ：10の前奏曲 作品23より第6番変ホ長調 / 第10番変ト長調

古賀 大路

ショパン：練習曲 作品25第10番口短調 / 第11番イ短調

ラフマーニノフ：幻想的小品集 作品3より第2曲〈前奏曲〉嬰ハ短調

バラークレフ：イスラメイ

[連弾]

横山幸雄：超絶技巧連弾曲〈カルメンの誘惑と幻想〉

第24回石橋益恵先生記念コンサート

- 2017年2月28日(土) 午後3時30分開演
- 上野学園 石橋メモリアルホール
- 主催：学校法人 上野学園

出演者 緒方 恵 (ヴァイオリン) / 山本 裕康 (チェロ) / 島田 彩乃 (ピアノ)

プログラム

[二重奏]

山本裕康 (チェロ) / 島田彩乃 (ピアノ)

ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第3番イ長調 作品69

[独奏]

島田彩乃 (ピアノ)

ブラームス：6つのピアノ小品 作品118より第2曲〈間奏曲〉イ長調

[三重奏]

緒方恵 (ヴァイオリン) / 山本裕康 (チェロ) / 島田彩乃 (ピアノ)

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲第1番ニ短調 作品49

石橋益恵ピアノ奨学金について

平成4年2月28日に逝去され、同3月12日、上野学園学園葬（音楽葬）をもって、ご逝去を悼んだ故石橋益恵学園長先生の、音楽の教育と研究とに捧げられたご一生を偲び、その教育の理想実現をさらに追求するために設置されるものである。

先生ご自身がピアニストであり、ピアノ教育研究に特に強い意志と情熱をもたれたことにかんがみ、この奨学金はピアノ演奏、研究、教育に携わるものを対象とし、授与される。

さらに、具体的には、先生が音楽を中心に経営してこられた上野学園教育の一層の充実を図るため、その最高教育機関である大学音楽学部卒業生もしくは同音楽専攻科修士を対象とすることとする。

「美しい音」の追究を、演奏者の「美しい人柄」にも求められた先生の理想を継承し、上野学園大学音楽学部の恵声会会員に、研究・発表の機会を与え、さらに次の世代を育てる教育の場においてもこれが生かされ、音楽文化の発展と維持とに貢献し得ることを目的とするものである。

第22回受賞者 中山千晶

平成26年3月 上野学園大学音楽学部音楽学科
演奏家コースピアノ専門卒業
平成27年3月 上野学園大学音楽専攻科器楽専攻修了
音楽専攻科在籍中、ウィーン国立音楽
大学ヘゼメスター留学
現在、同大学ポストグラデュエート・
コース ピアノ科在籍中

第24回受賞者 なし

※申込者がいなかったため、受賞者なし

第23回受賞者 法本あゆみ

平成24年3月 上野学園大学音楽学部音楽学科
演奏家コースピアノ専門卒業

第20回「石橋益恵ピアノ奨学金」受賞記念演奏会 池山恵末ピアノ・リサイタル

- 平成28年2月14日(日) 午後3時開演
- 上野学園 石橋メモリアルホール
- 主催 学校法人上野学園
- 後援 上野学園大学・同短期大学部恵声会



■プログラム

ショパン	アンダンテ・スピナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
シューマン	グヴィッド同盟舞曲集 作品6
ドビュッシー	映像 第2集〈葉ずえをわたる鐘の音〉 〈そして月は廃寺に落ちる〉 〈金色の魚〉
デュティユー	ピアノ・ソナタ 第1楽章 Allegro con moto 第2楽章 Lied 第3楽章 Choral et variations

プロフィール

平成24年3月 上野学園大学音楽学部音楽学科演奏家コースピアノ専門卒業
平成24年4月～26年3月 上野学園大学伴奏要員
平成25年4月～ 上野学園大学附属KIDSミュージックスクール講師

第22回「石橋益恵ピアノ奨学金」受賞記念演奏会
中山千晶ピアノ・リサイタル

- 平成28年9月3日(土) 午後3時開演
- 上野学園 石橋メモリアルホール
- 主催 学校法人上野学園
- 後援 上野学園大学・同短期大学部恵声会



■プログラム

J.S.バッハ	パルティータ第5番 ト長調 BWV829
ブラームス	ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 変ロ長調 作品24
ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品110
シューマン	ピアノ・ソナタ第1番 嬰へ短調 作品11

プロフィール

平成26年3月 上野学園大学音楽学部音楽学科演奏家コースピアノ専門卒業
平成27年3月 上野学園大学音楽専攻科器楽専攻修了
音楽専攻科在籍中、ウィーン国立音楽大学へゼミマスター留学

第23回「石橋益恵ピアノ奨学金」受賞記念演奏会
法本あゆみピアノ・リサイタル

- 平成29年5月20日(土) 午後3時開演
- 上野学園 石橋メモリアルホール
- 主催 学校法人上野学園
- 後援 上野学園大学・同短期大学部恵声会



■プログラム

ハイドン	ピアノ・ソナタ 八短調 Hob. X VI:20
シューマン	3つのロマンス 作品28
	ノヴェレッテ 作品21-8
ショパン	アンダンテ・スピアナートと華麗なる 大ポロネーズ 変ホ長調 作品22
	ノクターン 第14番 嬰へ短調 作品48-2
シマノフスキ	ポーランド民謡の主題による変奏曲 作品10

プロフィール

平成24年3月 上野学園大学音楽学部音楽学科演奏家コースピアノ専門卒業



恵声会主催演奏会



定期演奏会

「第35回 恵声会定期演奏会」を平成30年6月9日(土) (開演14:30)に開催いたします。

今回は、これまで同様、ソロやアンサンブルの演奏の他、卒業生の方々の企画も取り入れ、また、多くの大学の先生方の協力により、

- ・オラトリオ「メサイヤ」よりハレルヤ / G.F.ヘンデル

指揮：吉田伸昭先生

パイプオルガン：小林英之先生

合唱・オーケストラ：卒業生と在校生有志

- ・アルメニアン・ダンス パート1 / A.リード

指揮：彦坂眞一郎先生

ウィンドアンサンブル：卒業生と在校生有志

の2曲を演奏することになりました。

上記の合唱、オーケストラ、ウィンドアンサンブルの出演希望者を現在も募集しておりますので、下記までご連絡ください。

また、今後も多くの方々にご出演及び企画としても関わっていただき、少しでも多くの卒業生の皆様にご来場いただけることを願っております。

今回ご出演されない方でも、①ソロ・アンサンブル、②合唱、③オーケストラ、④ウィンドアンサンブル、⑤企画・スタッフ、⑥演奏会のお知らせ希望など、お問合せいただければ幸いです。

【お問合せ先 keiseikai.teiki@gmail.com】

定期演奏会係 藤井陽子、鈴木圭子



新人演奏会

新人演奏会は卒業後3年間の出演期間を設け、新卒業生の活動の場を広げていくお手伝いができるようにという目的で企画、運営をしております。お陰様で、活発に演奏活動されている卒業生も多く、年々出演希望者が増えているような状況です。

出演者だけではなく、スタッフも随時募集してお

りますのでどうぞよろしくお願いたします。

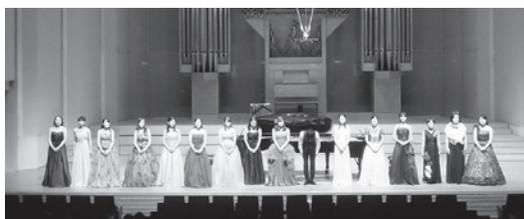
入場無料でどなたでもお越し頂けますので、多くの方々に学園祭にいらしていただき、新しい卒業生たちの演奏をご来聴、応援していただければ幸いです。

【次回の新人演奏会予定】

平成30年11月4日(日) (学園祭の2日目)

17時開演予定 (上野学園 石橋メモリアルホール)

新人演奏会係 山下百恵、片倉みな美



プティ・コンセール

もっと身軽に身近に演奏する機会は作れないか？もっと気軽に母校に足を運べる機会は作れないか？等々、これらを叶えるため企画されたのがプティ・コンセールです。毎年開催される学園祭『櫻樹祭』の催し物として参加し、平成28、29年には15階の見晴らしの良い広い教室でサロン形式のアットホームなコンサート、またエオリアンホールでの本格的なコンサートを行いました。同日には恵声会新人演奏会がメモリアルホールで行われるので、一日中卒業生が奏でる音が学園に響くのです。プティ・コンセールは当日控室(着替え等)兼音出しとして皆様に譲り合ってお使いいただくお部屋をご用意できますが、事前リハーサルやチケットなどの配布物等はありません。が、何と言っても「身軽に!」、無料で参加、演奏できるのです!お客様もちろん無料!学園祭に準じているため会場や時間帯などその年によって事情は変わりますが、会員の皆様楽しんでいただける機会になりますよう、企画して参ります。

プティ・コンセールでは演奏者の他、お手伝いくださる方を募集しております。学園祭参加の催し物ですので、学生気分に戻って一緒に盛り上げてみませんか?

【お問合わせ先 keiseikai.petit.concert@gmail.com】

プティ・コンセール係 庄智子、白井雅子

第34回 定期演奏会

2016年6月11日(土)
14:00開場 14:30開演
上野学園 石橋メモリアルホール

第一部

根岸美奈子 (ピアノ)
ワルツ 第10番 作品69-2 / F. ショパン
ノクターン 第3番 作品9-3 / F. ショパン
陰山 雅代 (ソプラノ)
山下 百恵 (ピアノ)
ヴォカリーズ / S. ラフマーニノフ
歌劇「蝶々夫人」より “ある晴れた日に”
/ G. プッチーニ
松本 雅子 (ピアノ)
パガニーニ・ジャズ / F. サイ編曲
音良・音賢コーラス隊 (合唱)
石田由美子 (指揮)
白井 雅子 (ピアノ)
落葉松 / 小林秀雄
オラトリオ「メサイヤ」より
“ハレルヤコーラス” / G.F. ヘンデル

第二部

根岸 奏好 (ソプラノ)
平石 愛美 (ピアノ)
歌劇「ランメルモールのルチア」より
“あの方の優しい囁きが～香炉はくゆり～
私の死骸の上に苦い涙を(狂乱の場)”
/ G. ドニゼッティ
越智まりこ (ソプラノ)
木村 徹 (ピアノ)
歌をください / 中田喜直
最後の歌 / F.P. トスティ
歌劇「ラ・ボエーム」より “私が街を歩くと”
/ G. プッチーニ
宮田 康子 (ピアノ)
「詩的にして宗教的な調べ」より 第7曲
“葬送” / F. リスト
北村香緒里 (ピアノ)
メフィスト・ワルツ 第1番 / F. リスト
荒井 伸一 (クラリネット) ※賛助出演
片倉みな美 (ピアノ)
アリア / A. ガブッチ
舞踏前奏曲 / W. ルトスワフスキー

惠声会新人演奏会

2014年11月3日(月・祝) 17:00開演
上野学園 石橋メモリアルホール

長倉 光穂 (ピアノ)
樂興の時 作品16より
第3番 アンダンテ 第4番 プレスト
/ S. ラフマーニノフ
原島 拓也 (フルート)
片倉みな美 (ピアノ) * 賛助出演
ヴァイオリンと管弦楽のための「カルメン幻想曲」
/ P. サラサーテ (原島拓也編曲)
遠藤 美樹 (フルート)
平石 愛美 (ピアノ) * 賛助出演
リノスの歌 / A. ジョリヴェ
金澤 紗織 (ピアノ)
三つの演奏会用練習曲 作品144より
第3番 変ニ長調「ため息」 / F. リスト
火ノ川慎平 (トランペット)
山田野乃子 (ピアノ)
演奏会用小品 第1番 へ短調 / V. ブラント
梅田 紘美 (トロンボーン)
長澤 歩 (トロンボーン) * 賛助出演
古部 美喜 (トロンボーン) * 賛助出演
ア・ソング・フォー・ジャパン
/ S. フェルヘルスト
森谷 仁彦 (ヴァイオリン)
無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ
第1番 ト短調 BWV1001
第1楽章 アダージョ 第4楽章 プレスト
/ J.S. バッハ
フルートカルテット Palette
木本結梨香 (フルート)
宮崎 彩香 (フルート)
武富 玲奈 (フルート)
水野 由依 (フルート)
フルート四重奏のための「想い出は銀の笛」
/ 三浦真理
石田奈々子 (ソプラノ)
平石 愛美 (ピアノ) * 賛助出演
主題と変奏曲「おお! 恋人よ帰れ」 作品164
/ H. プロッホ
歌劇「魔笛」より “復讐の炎は地獄のように
我が心に燃え” / W.A. モーツァルト
清水 那弥 (フルート)
木津 萌香 (ピアノ) * 賛助出演
エアボーン / G. ショッカー

氏家 球子 (ソプラノ)
 平石 愛美 (ピアノ) *賛助出演
 6つの歌 作品8より
 第4曲「私は悲しい恋をした」第5曲「夢」
 / S.ラフマーニノフ
 エレジー/
 歌劇「マノン」より “さようなら、私たちの
 小さなテーブル” / J.マスネ
 飯島 那咲 (第1ピアノ)
 神崎 恵理 (第2ピアノ)
 2台のピアノのための組曲 第2番 作品23
 「シルエット」より
 3.道化 4.夢見る人 5.バレリーナ
 / A.アレンスキー

2015年11月8日(日) 17:00開演
 上野学園 石橋メモリアルホール

小山 朋美 (ヴァイオリン)
 片倉みな美 (ピアノ) *賛助出演
 バレエの情景 作品100 / Ch.ベリオ
 山根 采夏 (ピアノ)
 音の絵 作品33より
 第2番アレグロ 第7番アレグロ・コン・フォーコ
 第8番モデラート / S.ラフマーニノフ
 阪本 理紗 (ヴァイオリン)
 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ短調
 BWV1003より 第2楽章 フーガ / J.S.バッハ
 山本裕理子 (フルート)
 平石 愛美 (ピアノ) *賛助出演
 ソナチネ / E.パルトン
 東 莉沙 (オーボエ)
 鴨志田夏実 (ファゴット) *賛助出演
 新山 茜 (ピアノ)
 オーボエ、バスーンとピアノのための三重奏曲
 / F.プーランク
 池田 愛 (クラリネット)
 平石 愛美 (ピアノ) *賛助出演
 クラリネット・ソナタ 第1番 ハ長調 第1楽章
 / F.ドヴィエンヌ
 森谷 仁彦 (ヴァイオリン)
 24のカプリース 作品1より 第11番 ハ長調
 / N.パガニーニ
 長谷川祐里 (ソプラノ)
 鈴木 奏子 (ピアノ)
 そして小鳥は / 大地と海 /
 歌劇「妖精ヴィッリ」より
 “もしも私が小さな花ならば” / G.プッチーニ
 中山 千晶 (ピアノ)
 パルティータ 第5番 ト長調 BWV829より
 プレアンブルム、アルマンド、コレンテ、
 サラバンド、ジグ / J.S.バッハ

遠藤 美樹 (フルート)
 鈴木 萌子 (ピアノ)
 フルード・ソナタ / F.プーランク

2016年11月6日(日) 17:00開演
 上野学園 石橋メモリアルホール

臼井 玲奈 (ヴァイオリン)
 鈴木 梨乃 (ピアノ)
 ヴァイオリン・ソナタ 第5番 ハ長調「春」
 作品24より
 第1楽章 / L.v.ベートーヴェン
 吉田 典代 (ヴィオラ)
 無伴奏チェロ組曲 第6番 ニ長調 BWV1012より
 プレリュード、ジグ / J.S.バッハ
 石田 諭 (トランペット)
 谷口 真由 (トランペット)
 高尾 優 (トロンボーン)
 垣内 佑規 (ホルン)
 神蔵 周平 (チューバ)
 金管五重奏曲 第1番 変ロ短調 作品5より
 第1楽章、第2楽章 / V.エワルド
 吉田 雪乃 (ピアノ)
 バラード 第4番 ハ短調 作品52 / F.ショパン
 長谷川祐里 (ソプラノ)
 鈴木 奏子 (ピアノ)
 誘い / 歌劇「セビリアの理髪師」より
 “今の歌声は” / G.ロッシーニ
 田村亜香里 (フルート)
 船坂理李花 (クラリネット)
 木津 萌香 (ピアノ) *賛助出演
 タランテラ 作品6 / C.サン＝サーンス
 阪本 理紗 (ヴァイオリン)
 岡 友紀奈 (ピアノ) *賛助出演
 ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78より
 第1楽章 / J.ブラームス
 森谷 仁彦 (ヴァイオリン)
 24のカプリース 作品1より 第1番 ホ長調、
 第7番 イ短調 / N.パガニーニ
 小坂 里佳 (フルート)
 久保井亜未 (ピアノ)
 ヴァラキア地方の歌 作品10 / F.ドップラー
 辻 真理恵 (ピアノ)
 ポロネーズ 第6番 変イ長調 作品53「英雄」
 / F.ショパン
 儘田菜津美 (第1ピアノ)
 小林 詩織 (第2ピアノ)
 3つのロマンティックなワルツより
 第1番 ニ長調、第3番 ハ長調 / E.シャブリエ
 阿部かこの (第1ピアノ)
 鈴木 梨乃 (第2ピアノ)
 スカラムーシュ 作品165 / D.ミヨー

2017年11月5日(日) 17:00開演
上野学園 石橋メモリアルホール

今井 美佳 (ピアノ)

8つの演奏会用エチュード 作品40より

1.プレリュード 2.夢 8.フィナーレ

／N.カプースチン

牧野 華林 (ソプラノ)

松野 海斗 (ピアノ)

樹立／山田耕作

さくら横ちょう／中田喜直

歌劇「フィガロの結婚」より

“スザンナは来ない…”

楽しい思い出はどこへ”／W.A.モーツァルト

田淵 詩子 (ピアノ)

ピアノ・ソナタ 第23番「熱情」作品57より

第2楽章、第3楽章／L.v.ベートーヴェン

工藤 桃子 (ヴァイオリン)

小磯亜祐実 (ピアノ)

ルーマニア民族舞曲／B.バルトーク

田中 喜子 (ピアノ)

ピアノ・ソナタ 第26番「告别」作品81aより

第1楽章、第3楽章／L.v.ベートーヴェン

小磯亜祐実 (ピアノ)

即興曲へ短調 作品142の1／F.シューベルト

坊野称央己 (ヴァイオリン)

白井 玲奈 (ヴァイオリン)

久保井亜未 (ピアノ)

2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調

BWV1043より 第1楽章、第3楽章／J.S.バッハ

経塚麻友子 (フルート)

宮下 莉奈 (フルート)

島田 千尋 (ピアノ)

2つのフルートとピアノのための「紅」

1.秋風 2.黄昏色 3.紅燃ゆる／真島俊夫

藤井 成美 (第1ピアノ)

佐藤あかり (第2ピアノ)

2台のピアノのための組曲 第2番「シルエット」作品23より

4.夢見る人 5.踊り子／A.アレンスキー

吉川真珠子 (第1ピアノ)

立花 雅子 (第2ピアノ)

組曲「シンデレラ」作品87より

2.いざかい 7.ギャロップ

／S.プロコフィエフ (編曲：プレトニョフ)

惠声会「グラン・コンセール2017 ～卒業生の新春10時間コンサート～」 開催のご報告

会員の皆様の研鑽の場として、平成29年1月15日、新しい石橋メモリアルホールにて卒業生を主とした60組(総勢112名)出演による演奏会を開催致しました。

2006年に上野学園の校舎リニューアルに伴い、石橋メモリアルホールが改修されることにあたって、校内では「石橋メモリアルホール・さよならコンサート」が多数開催されました。

当時、惠声会も学園のご協力の下、多くの卒業生達が思い出多きホールを惜しみつつリレー形式で演奏を披露致しました。

その後、惠声会員の皆様から「リニューアルされた新しいホールの響きを楽しみたい」「学び舎で演奏してみたい」「今まで学んできた事を、ホールで演奏したい」というお声を幾度となく戴いて参りました。

こうした経緯と「石橋メモリアルホール・さよならコンサート」から10年の節目を迎える事を踏まえて、多くの卒業生と触れ合える様「グラン・コンセール2017～卒業生の新春10時間コンサート～」を、上野学園大学に全面協力いただいで開催致しました。

長時間に渡りましたが、ソロ演奏やアンサンブル等華やかな雰囲気の中無事に終了し、お陰様で各所から沢山の好評をいただきました。

実施内容は、下記の通りです。

日 時 平成29年1月15日(日)午前10時～午後8時
会 場 上野学園 石橋メモリアルホール
出演資格 申請者(出演者)が惠声会員である事
演奏時間 1組8分以内
出演者人数 60組
参加料 無料
施設費 無料(メモリアルホール・付帯設備等、大学のご協力により)

演奏会開催にあたりまして、全面協力をしてくださいました上野学園大学の関係者の方々に、そしてご支援下さいました惠声会員の皆様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



支部だより

北海道支部

昭57大ピ 野末 章子

北海道支部では、この数年、新会員の入会はありませんが、例年通り総会と新年会を開催し、交流を深めております。現在音楽に関わっていない会員の方々にも演奏会情報を共有し、ご協力いただいております。

この3年、個人的に活躍しているの方々のご報告をさせていただきます。

まず、法本あゆみさん（平24大ピ）が、第17回「長江杯」国際コンクール第2位入賞。横浜国際コンクール審査員特別賞受賞。小樽市民マリンホールに於いて、リサイタル開催。第23回「石橋益恵ピアノ奨学金」受賞記念演奏会出演。卒業後、精力的に取り組んでおられます。上田敦子さん（昭41大声）は、昨年CDアルバム「歌をください」をリリースし、今年東京白寿ホールに於いて、「デビュー50周年記念リサイタル」を開催し、聴衆を魅了しました。岸田頌子さん（昭37大声）主宰の「さっぽろ旭山音楽祭」は、今年30回目を迎え、多くの観衆の中、素晴らしい歌声が夜空に響き感動的でした。26回目を迎えたチャリティーコンサート「日本の心をうたう」では昔懐かしい曲を披露され、心温まる演奏会でした。橋本邦江さん（昭37大声）は、ご主人の研究のため、ご家族と共にアメリカから西アフリカのリベリア共和国に派遣され、滞在中に貴重な仮面と彫像を収集されました。この度札幌彫刻美術館に於いて展覧会と講演会を開催され、作品の素晴らしさとアフリカでの貴重な体験談に感動致しました。

この一年、母校の存続が心配されましたが、こうして活動報告をご紹介でき、安堵いたしております。今後も会員間の交流を大切にし、母校の発展を応援していきたいと思っております。

青森支部 (秋田含む)

昭35大声 野呂 榮子

長い間青森支部の方達には、おやすみをして申し訳なく思っています。大学を卒業して早50年以上になりましたが、若かった時の会員の人達が力を合わせて活躍した事が思い出されます。八戸で英国のケンブリッジ大学室内合唱団が演奏に来た時、故石橋益恵学長先生が来八して下さり私達もはりきってがんばりました。その結果素晴らしい演奏を聴いた市民の皆様は、感激してよくこんな田舎に呼んでくださったと沢山のおほめの言葉をいただきました。

私の事ですが、上野学園を卒業して公立中学校の教職に就く事が出来ました。学長先生の生徒に対する優しさは今でも忘れません。成人式の日に大切な娘さんを預かっているのと云ってお赤飯をごちそうしていただいたのが、心に残って、いつまでも忘れません。結婚して二人の子供のため教職を離れ、自分でピアノ教室を始めました。美川先生にはお世話になり、先生に演奏もしていただいたりもしました。本当に有難うございました。高校の時の先生が合唱団を指導しているので入らないかとお誘いを受けて入りました。ママさんコーラスで毎週の練習の結果、全国一位になり、そのおかげで海外、ドイツ、イタリー、スペイン、ロシアと各国の人達と一緒に交流が出来、教会で演奏した事が思い出になっています。美学の皆川先生がNHKで毎週活躍され、なつかしく聞いています。

元東北支部の中里恵子さんはご自身の合唱団の指導をしたり、小学校にも指導したりがんばっています。「月の砂漠」を指導した時の話をしてくれました。強弱、感情のお話、表現の指導を生徒は良く話を聞いて理解出来たのか、素晴らしい情感で歌ったのが生徒父兄先生方も聞き惚れたそう

です。中里先生にはいつも頭がさがります。

遠い昔の思い出を書きましたが、八戸も音楽が盛んな所です。学園の発達を願っています。

岩手支部

昭54短ピ 柴野 千砂

この原稿にあたり三年振り会員全員にお便りを差し上げましたところ、6年前の震災よりも「宛先不明」の返送が更に増え、事務局としての課題の一つとなりました。そのような中、頂いたお手紙の中の欠席理由には、地域のコンサート出演の為、又勤務先高校合唱部全国出場の為、といった内容が書かれてあり、皆で欠席の理由を誇らしく語り合いました。集まった方の中には震災被害の大きかった山田町から参加された方もいて、「直後はピアノどころではなかった街の方々も今は落ち着き、少しずつ生徒さんも増えて着きました。」との報告に皆で安堵しました。又、集まった全員が恵美寮で過ごしたということもあり、食事・お風呂・全員での掃除等々、話は尽きず、こうして時々会って話すことで恵美寮はまだあり続ける気持ちもしました。そしてそれは上野学園自体への私達の想いに他ならず、母校の存続と安寧を皆で祈りながらの閉会となりました。

昨年の秋には宮城支部のコンサートにお招きいただき、その後お茶会で支部長の松田先生から「岩手の卒業生の方も東北支部の一員として一緒にコンサートを」とのお誘いをいただきました。卒業生も減る一方の中、岩手単独の支部存続も難しくなっていますので、とても心強く思いました。会報を読まれた岩手在住の方々、ご一報をお待ちしております。

宮城支部 (山形を含む)

昭56短ピ 松田 伸子

宮城支部は、2015年3月にソプラノ独唱とアイリッシュハープによるプログラムで「春の新人演奏会」、そして2016年11月に初の男性会員を迎え、フルートを中心にアンサンブルを加えたプロ

グラムによる「秋の新人演奏会」を開催致しました。秋の演奏会の時は宮城出身の現役の2名の学生さんにも出演して頂きました。その事は今後の支部の活動に新たな力を貰えたと思っております。またどちらの演奏会にも勝俣季子先生がいらして下さいました。春の時には前支部長の福田成子さんも駆けつけて下さり、久しぶりの演奏会でしたがお二人に支えられてなんとか終える事が出来ました。宮城支部は少人数で活動しているので演奏会を開催することはとても大変ですが、これからも力を合わせて頑張っていきたいと思っております。また震災から7年が経ち、東北支部の方達と音楽の力で絆を深め合える演奏会が出来たらと願っております。



春の新人演奏会

～ソプラノ独唱とアイリッシュハープの調べ～

日時 2015年3月8日(日)

13:30開場 14:00開演

会場 ティーラウンジ ルフラン



秋の新人演奏会

～フルートとソプラノ独唱の調べ～

日時 2016年11月13日(日)

13:30開場 14:00開演

会場 常磐木学園 シュトラウスホール

福島支部

昭63大音 高萩 千津

福島支部は、なかなか思うように活動できずにおりますが、卒業生は各々に教員や音楽教室の講師として県内の各地で活躍されております。

今後は、市役所のロビーコンサートや病院等でのボランティア演奏など地域に根差した活動をしていきたいと考えております。

また、同じ東北の各支部の皆様と音楽の力で心をつにし、オール東北での活動が出来ればと思っております。

今回はコンサート等の活動をご報告できるように頑張っていきたいと思っております。

群馬支部

昭46大音 甲本 順子

私が群馬支部の支部長をお引受して、早くも4年がたちます。

この間、支部会員の登録、名簿作成、運営に関するアンケート等幹事の皆さんの協力のもと、会の基盤作りを進めて参りました。総会も出席者は少ないながら毎年開けるようになりました。毎年新しい卒業生の会員登録も進み、現在は60名を数えるまでになりました。

支部長を引き受けるときに、活発な会の運営を目指しましたが平成29年9月の会員によるコンサートは、出演希望が少なく、残念ながら中止となりました。この間、大学の抱える問題に対しても、経過報告等、できる限り皆様に情報を提供できるように考え、総会の報告書と共に全員に送付しました。また、昨年の支部総会では、今まで年会費を徴収せず開催しましたが、今年から年会費を集めることになりました。支部活動に対して会員の関心が少なく、これからどのように会を運営したらよいか思案しています。会員の皆様には、この場をお借りして、ご協力を賜りたいと御願いたします。

平成28年に前恵声会群馬支部長の江原満里子様に長年の音楽活動に対し旭日双光章が贈られま

した。総会の席でお祝い申し上げます。

支部総会に欠席の会員の中には、独自に、地元で音楽活動をしている方もいます。

私自身について申し上げますと、東日本大震災直後より、コンサートの度に、募金を募り、被災地にピアノを贈る活動をしています。今までに東松島市と石巻市の幼稚園等に計4台のピアノの寄贈をさせていただきました。

恵声会群馬支部長として、卒業生が誇りにしている上野学園大学のさらなる発展のために、微力ながら支部の活性化に努めておりますが、恵声会本部主催の総会ならびに支部長会議が開催されていないことが誠に残念に思っております。支部長会議を通して、全国の支部長が一同に集まる機会をいただければ幸甚に存じます。

千葉支部

昭52大音・昭53大音 竹内 千恵子

お蔭様で千葉支部は、今年（2017年）発足30周年を迎えました。これも多くの方々のお力添えの賜と、深く感謝いたしております。

そこで10月24日（火）にはこれを記念して「30周年メモリアル・コンサート」を開催いたしました。ソロ、アンサンブル7組の多彩なプログラムに加え、最後の曲目としてヘンデル作曲「メサイア」の“ハレルヤ”が演奏されました。大学の吉田伸昭准教授の指導のもと、小林英之教授のパイプオルガン、在学生2名のトランペット、そして千葉支部会員や会員以外の卒業生、在学生、そして先生が参加した総勢44名による合唱は、音楽を愛する思いがひとつになって、メモリアルホール全体に響いた素晴らしい時間となりました。

今後も千葉支部は、音楽という絆を大事に、謙虚に、真摯に歩んでいきたいと思っております。

なお、平成26年度以降の活動は次の通りです。

《平成26年度》

* 第23回研修会「魂のアリア」

講師：田村美知子（6月28日）

* 「みんなのコンサートⅤ」（11月28日）

《平成27年度》

* 第14回支部総会（6月27日）

* 第24回研修会「音の色彩／色の響き～20世紀音楽の探求～」講師：向井大策（6月27日）

* 支部会報（第16号）の発行（10月）

* 「クリスタル・コンサート～未来にエールを～」（3月10日）

《平成28年度》

* 第25回研修会「楽譜から学んだこと」

講師：本澤尚道（11月15日）

《平成29年度》

* 第15回支部総会（6月18日）

* 「30周年メモリアル・コンサート」(10月24日)



「30周年メモリアル・コンサート」
(2017年10月24日、石橋メモリアルホールにて)

埼玉支部

昭56大ピ 田村 博子

埼玉支部は発足して32年となりました。現在会員数は127名で、毎年次のような研修会やミニ・コンサートを開催したり、会報の発行を行っています。

《研修会》

★講座 『ドビュッシーの〈月の光〉～音楽・詩・絵画のコレスポンド～』

講師：向井大策先生（平成27年6月27日）

★講座 『子供（幼児期）の音楽感覚と基礎技能』
～音楽の基本的な三要素について・演奏上の三要素について～

講師：高橋正夫先生（平成28年6月18日）

★植田克己先生 公開レッスン（上野学園高等学校音楽科主催）

場所：上野学園 石橋メモリアルホール（平成29年7月1日）

平成27年と28年は、現在の大学生が学ぶ上野学園大学内の1404室で研修会を開催しました。向井先生は、音や映像を交えて、全ての芸術が影響し合ったり、融合して生まれる「美」について、熱くお話して下さいました。高橋先生は、子供の興味をつかむ指導法などを実演を交えながら楽しく解説して下さいました。終了後には、会員の皆さまと一緒に昼食をいただきながら様々なお話をお伺いし、それぞれの先生のお人柄にも触れることが出来て、大変貴重な一日となりました。

植田先生の公開レッスンは、上野学園高等学校音楽科の催しに埼玉支部が協力という形で参加いたしました。植田先生の優しいお人柄と的確なご指導に、深く感銘を受けました。

《ミニ・コンサート》

★平成28年10月30日

上野学園大学オーケストラ・スタジオ

★平成29年9月3日 上野学園 エオリアンホール

支部会員の生徒さんと支部会員によるミニ・コンサートを昨年より開催しています。お陰様で多くの方々に学校へ足を運んでいただくことが出来



ました。出演者の方々の熱演と、特別出演の庄先生の迫力ある素晴らしい歌声に、一同感動いたしました。来年以降も開催する予定です。

今後も会員の親睦^{はか}を計り、上野学園や恵声会の発展を心より願っております。

東京支部

昭35ピ 中島 純子

発足10余年と活動して参りました東京支部ですが、現在は活動休止中です。

神奈川支部

昭55大打 加島 薫

神奈川支部は、1982年に発会后、2017年度をもちまして35周年を迎えることが出来ました。その間、野口京子初代支部長の下、演奏会、研修会、会報、記念コンサート、親睦会等、活発な活動を続け、その後10年間花田彩子支部長が引継がれ、多くの方々のご協力を頂き35年を迎えました。幹事の中からの発案で始まった勉強会（UKSの会）も8回を数え、卒業間もない若手から、1961年卒の方までの参加があり、会員相互の親睦の機会としても定着し、有意義な催しとなりました。35周年記念コンサートでは、I部がピアノ・フルートアンサンブル・ピアノデュオ、II部はソプラノ・メゾソプラノの先生をお迎えし、多彩なプログラムと圧巻のステージで高評を頂きましたが、平日の夜の開催ということもあり、集客に課題を残したところもありました。この度、前支部長からバトンを受けた私ですが、



神奈川支部の伝統とも言える、和やかでフレキシブルな雰囲気をもままに、皆様のお力をお借りして努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

上野学園恵声会神奈川支部
35周年記念演奏会

2017年5月18日(木) 開演 19:00 (開場 18:30)
横浜みなとみらいホール小ホール
入場料 3,000円(全席自由)

第1部 支部会員の演奏

ピアノ独演 吉田雅太 瓜生直子
ブルック: オルフェウスとエウリディケ (アンダーソン&ロエ編曲)
モーツァルト: 夜曲 スケルツォ (アンダーソン&ロエ編曲)
ラフマニノフ: ヴィカリーズ (アンダーソン&ロエ編曲)
アンサンブル 金井さおり 望月あかね 久保田まき 江連れい(フルート)
加島薫(ハーモニウム)

伊藤康夫(フルート) 野間昭のたのケニア・ファンタジー
ピアノ独奏 新山真
ラヴェル: 「夜のガスパール」より オンディニス、スカルボ

第2部 ゲスト演奏

村上麗子(ソプラノ) 手嶋真佐子(メゾソプラノ) 山口佳代(ピアノ)
E.メンデルスゾーン: わが心の想い、歌の翼に
J.ブラームス: 風もそよぬややかな空気に
中田喜直: 雲のうへ
三善晃: 「抒情小曲集」より
G.ヴェルディ: 「トロヴァトーレ」より 恋は虹色の翼に乗って
E.チャレーア: 「アドリアーナ・ルカブール」より 喜び喜び、甘い喜び 他

みなとみらいホールサブテラス

主催 上野学園大学恵声会神奈川支部
後援 上野学園大学 同短期大学部恵声会 朝日新聞横浜総局
お問い合わせ 045(32)19949 (花田)
Email keiseikaikanagawa@yahoo.co.jp

愛知支部

昭51大ピ 宮田 康子

愛知支部は三年前の会報以来、主だった活動は行っておりません。会員の皆様の活動といたしましては、後進の育成、学校教育の現場、幼児教育と多岐にわたり活躍されております。支部として活動することは、なかなか難しい現状です。日々各々が研鑽を積み重ねながら、共に励まし合い、各々の活動の場で頑張りたいと思います。

岐阜支部

昭39声 土屋 和江

岐阜支部は毎年5月（最終日曜日）に親睦会を兼ねての集会を、おこなっております。しかし、今年は恵声会情報交換会がなく、又いろいろ事情が重なりましたので、次期恵声会情報交換会后に

開く予定です。さまざまな出来事が重なりましたが、その事により、岐阜出身の卒業生の人達で東京に残り、活躍しておられる人とお逢いしたり、連絡を取る事が出来ました。その中でとても喜ばしい話題は、上野学園に近い中学の教師をしている卒業生が、上野学園の高校に、優秀な生徒の進路指導をされたり、又、吹奏楽で全国大会で金賞を受賞をした指導の話を書く事が出来ました。とても輝かしい結果を出されているのを知り、大変嬉しく思いました。

又、岐阜に在住の人達も、それぞれの生徒は勿論、御自身のお子様も大変立派に教育されたり、後進の指導や御自分達の発表の会をもたれたり、多方面に音楽以外の道でも活躍されています。

今年度は、本部より、個人情報に関係から卒業生名簿が送られてきませんでしたでしたが、岐阜地方は「今年は該当者がいない」との連絡を頂きました。しかし、送り出した学生がおりましたので、やはり、支部長懇談会などの折などに、確認が必要なのでは、と思いました。

中国支部

平6大ピ **田淵 礼子**

今年度より恵声会中国支部の会長を引き継がせて頂きました田淵礼子と申します。14年前に神奈川県から岡山へ転居致しまして、恵声会の中国支部の懇親会に参加させて頂き、その後、支部会員の皆様と年に1度の懇親会と併せて勉強会として「プティ・コンセール」で演奏をさせて頂いておりました。

昨年度は、前支部会長の三浦様が、広島市安芸区民文化センターホールにて、支部会員のピアノソロと連弾の演奏と共に、会員の生徒さんにも参加して頂き、大きなコンサートを企画して下さいました。私の息子達（当時小1と中2）も参加させて頂いて、良い響きのホールで、貴重なステージ経験が出来ました。コンサート終了後は、懇親会で近況報告や情報交換をしました。コンサートで演奏するために勉強をし、他の方の演奏を聴く

事が出来、これからも勉強を続けていくエネルギーを頂きました。

今年度は、私の自宅教室サロン Kanon Piano Lesson School Salon で、支部会員による勉強会コンサート「プティ・コンセール」を致します。

また、平成30年2月25日には、Kanon Piano Lesson School Salonにて、上野学園大学音楽学部器楽学科ピアノ専門卒業のピアニスト稲井倫子さんのソロコンサートを企画しています。

愛媛支部 (高知含む)

昭45大声 **田附 里英**

今年も又、かつて経験のない〇〇というニュースをたくさん耳にしました。愛媛ではお陰様で大きな被害はありませんでしたが、被害にあわれた地域の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

そして、今年は石橋裕先生の訃報に接し、2月の「お別れの会」、6月の「偲ぶ会」に参加し、その様子を会員に報告し、先生のお書きになった詩（上村京子先生による朗読）を配りました。亡き先生のご功績を改めて知り、懐かしい思い出にいつまでも話が尽きませんでした。

愛媛支部では新しい会員の入会はありませんでしたが、年に4回程度、ミニコンサートと親睦会を持ち、近況報告や情報交換をしております。6月には、尾田友吏子さんの主催で「杉谷昭子ピアノリサイタル」が地元で開かれました。11月には、愛媛ヴォーカルグループ（会長田附）のオペラ・ガラコンサートに石田奈々子、村上容子さんが、12月の四国二期会愛媛支部の演奏会に石田奈々子さんが出演しました。'18年3月には、上村京子門下の「そにどり」演奏会を予定しております（岡田啓子、田附里英、平中美当吏、村上容子）。

恵声会愛媛支部としての演奏会は今のところ予定が立ちませんが、それぞれの環境の中で合唱の活動、ボランティア演奏活動など地域に貢献しています。演奏を離れても、同じ学び舎に集った仲間として、いつまでも強い絆で結ばれていたいと

思います。

そして大学には、これから上野学園を目指す若者達が、楽しく、充実した学生生活を過ごせる場であることを心から切望致します。

～ 学園の風景 ～



エントランス



食堂



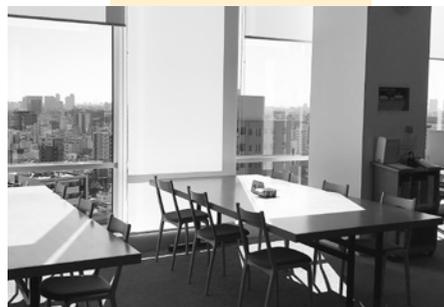
レッスン室



図書館



校舎からの眺め



卒業生は、レッスン室・図書館等の利用が可能です。

会員だより「窓」

毎年開催されている櫻樹祭プログラムの中の「窓」というコーナーにて、活躍されている卒業生を紹介しております。今号において2012年から2017年までの掲載記事をご紹介します。

■2012年掲載 田口 芳子さん

『音楽の力』

学園祭は、いつでも張り切りました。すぐに思っ出されるのは、教室を飾るために恰好のものを天井に発見し、そこにテープを張り付けていると、事務の方や守衛係の数人が大慌て飛んで来られ大騒ぎ。とんでもないことに、指に思いきり力を入れ抑え込んでいたものは、火災報知機でした。こんな大失敗もありましたが、学園祭は楽しく懐かしい思い出です。

卒業した私は二期会の研究員となり、当時上野学園は女子のみでしたから、かなりカルチャーショックを感じながらのオペラの稽古でした。その後ドイツの西ベルリンに留学。その頃ドイツは東西に分かれておりました。西も東も音楽界は充実していて、音の出せない夜はほとんどオペラや演奏会それにバレエを観に行き、東に良いものがあれば嫌な思いをしながらも国境を越えて通いました。昼間の時間は全て歌のための勉強に使える、大変幸福な時代でした。演奏活動は大学卒業直後から始めておりましたが、ずっと長い間、疑問がありました。それは「演奏活動は自己満足でしかないのでは？」ということでした。

他の職業は生活の糧を得るものではありませんが、それでも世の中に還元され、人のためになるのに、自分のしていることはどうなのだろうか？親類縁者に頭を下げてチケットを買わせ、ただ迷惑をかけているだけではないだろうか。しかし時が経ち、今やっとこの年齢になって悩みは消えました。人はこんな私の歌にも涙を喜んでくださることを知りました。

昨年の東日本大震災後、あちこちでホールの使用が出来ず、コンサート中止が続きました。

その後、余震を心配しながらもコンサートを主

催したところ客席は満席、多くのお客様が「元気をもらった、ありがとう」と言って帰られました。音楽の力は凄いと感じました。若かった頃の私は都心での演奏会や海外での活動ばかり目に向けておりましたが、自分の育った地元で23年前から、演奏会に縁のない方や広い意味での演奏会に参加しにくい方達のためのチャリティーコンサートを主催しています。大勢の方達がコンサートを楽しみにして待ってくださいます。30年前から、自分が歌ったり演じるだけでなく、合唱の指導もするようになり、最近ではウィーン楽友協会でシューベルトを指導し、おかげさまで成功といえるコンサートになりました。今年4月、ワシントンでの日米桜交流100周年記念コンサートに実行委員長及び指揮者として160名を率いて参加、ニューヨーク・カーネギーホールでも公演し、客席のスタンディングオベーション、終演後に楽屋を出ると沿道にはニューヨークの方たちの長い列ができていて喜んで下さる言葉と握手が続きました。やはり音楽の力は凄いです。

学生の皆様、学生生活を楽しんで下さい。そして、勉強は他人よりも努力し時間をかけた分、必ず結果は出ます。人生の中でうんと勉強しておかねばならない時期を見失わないでください。母校の後輩の皆様のために私の出来ることで応援し続けたいと思います。

皆様のご多幸と母校の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

略歴

- 昭和41年 上野学園大学音楽学部声楽学科卒業。ベルリンに留学。
- 平田黎子、I.ハルトマン、G.クラッツァーの各氏に師事。
- 声楽家として国内はもとより、海外公演も含め幅広く活動。

- ソプラノ歌手としてばかりでなく、合唱指導者としても活動し、ウィーン楽友協会にて好演。
- 日米桜交流100周年記念実行委員長及び指揮者としてワシントン全米桜祭りとN.Y.カーネギーホールの演奏は大好評を博す。
- 専門学校講師、足立区合唱連盟理事長、足立区音楽祭副会長、♪葦の会主催、日本演奏連盟会員、二期会会員。
- 足立区文化功労賞受賞。

■2013年掲載 小田部 七恵さん

『音楽と共に世界を巡って』

高校、大学とピアノを専攻しました。

子育てが一段落した40代の始め、大好きだった声楽の勉強を再開しました。学生時代に歌った曲が、全く違った感覚でとらえられる事に新鮮な喜びを感じ、自分自身の内面の変化にも気付かされました。又、声帯のメカニズムを知り、その使い方を自身でコントロールして歌うようになると、歌う事が益々楽しくなりました。

幸運な事に沢山のコンサートの機会を頂き、又、素晴らしい共演者の方々との出会いに恵まれました。他の方達の演奏に接し、音楽は演奏者の心の事を映し出す鏡である事を感じました。内面を磨くことも表現者として大切な事、少しでも善い人間でありたいと常に心掛けるようになりました。

海外でのコンサートでは、人種、言葉を超えて心を通わせる音楽の力を実感しました。打ち上げで、ギターに合わせ踊り明かすスペインの人達。イタリアでは、合唱団の天使のような二人の少女が、私に寄り添って離れなかったり、打ち上げを終えて帰ろうとする私を、多勢の人々が取り囲んで「チャオチャオバンビーナ」を歌ってくれました。又、クラシック音楽の伝統のないインドでは、巨大なスクリーンにステージを映し出す野外の会場を、二千人もの人々が埋めつくしました。オペラアリアの途中で、二人の男性が、なんと、曲に合わせて踊り出しました。どれもこれも思い出す度、心の温かくなる楽しい思い出です。又、R.シュトラウスゆかりの街、ドイツ、ミュンヘンでは、彼の歌曲を歌いました。日本とは違い、馴

染み深い曲を楽しんで聴く、客席の反応に、音楽文化の根の深さを感じました。三年前、ロシアでサントペテルブルク国立アカデミー交響楽団とオペラアリアを共演する機会を得ました。ペロゼロスキ元公爵邸の広々とした華麗なホールは立ち見の出る程の状況です。一曲歌い終える度に掛け声や手拍子の拍手が湧き起こり、その熱気に圧倒されました。何とも幸せな時間でした。終演後、エルミタージュ音楽財団の理事の方から、「大きな愛情で聴衆を包み込む素晴らしい歌でした。ロシア人の好きな大型歌手です」とのメッセージが届きました。この経験は、私に勉強を続ける事の重みと、歌い続ける勇気を与えてくれました。心を豊かにし、時に慰め、励まし、イメージの世界を果てしなく広げてくれる音楽。生きている喜びを感じさせてくれる音楽の素晴らしさを、コンサートを通して、又、私のレッスン室を訪れる方達や、コーラスのメンバー達に、これからも、持てる力の限りを尽くして伝え続けたいと思います。

私の心の中には、音楽の芽を芽ぶかせ、育ててくれた大学時代の教室、先生方の教えが、いつもふるさとのように、あり続けています。

略歴

- 上野学園高等学校、上野学園大学音楽学部卒業。
- 小澤秀子、篠崎義昭、下野晃、V.エヴティムエヴァ、M.シュミーゲの各氏に師事。
- 声楽、器楽のアンサンブルピアニストとして活動。その後ソプラノ歌手として演奏活動を開始。
- みなとみらいホールを拠点にフルートとのジョイントコンサートやテノール下野晃氏とのジョイントコンサート等、多くのコンサートを行っている他、海外公演も幅広く行っている。
- 女声合唱団コールソレイユ指揮者、響企画主宰、指導を行っている。

■2014年掲載 吉仲 京子さん

『堀田健一さんと支援コンサート』

堀田氏(1943年生まれ)は、オーダーメイドの自転車を40年近く作っておられます。手足が不自由だったり、欠損していたり、体の機能に支障がある人、又歩行が辛くなった高齢者等一人ひ

とりに適合させた自転車を生み出します。

足を患う私は、安全な乗り物を探す中で、堀田氏と出会いました。25年程前のことです。私の希望を満たした世界に一つだけの三輪自転車を作っていただきました。

親しく話すようになって、初めて堀田氏の厳しい実情を知ったとき、その衝撃に絶句、私自身の生き方を問われたようでした。「何かしなくては…私に何が…？」考えた先に支援コンサートがありました。

—堀田氏の実情— ある日、息子さんが遊ぶ足踏み式三輪車が、足の不自由な婦人の目にとまり、それが堀田氏の手作りによる物と知ると、婦人から「私にも作って」と何度も懇願されました。根負けした堀田氏は、試行錯誤しながら作り上げたそうです。

ところがこの日を境に、堀田夫妻の戦いが始まり、生活は一変してゆきます。なぜならその後、このような特殊自転車を必要とする人が、日毎訪ねてくるようになったのです。

元々は相囲包業を営み、4人の家族は不自由のない暮らしでした。彼自身は機械工作に長け（工業高校出身）、色々な物作りを楽しんでいました。堀田氏は自転車の注文を、一時的なこととしてとらえ、ひと先ず本業を休んで向き合いましたが、それが終わる日は来ず、結果、経済的困窮に追い込まれてゆきました。

設計図を起こし、工具の調達、材料の仕入れから始まり、完成までの全行程の一人作業は、時間的にも体力的にも大変な事です。もしもこれを事業経営として考えていたなら材料費、技術料、製作費、人件費、運搬費、その他諸々の経費を算出したでしょう。けれど彼は人助けという思いで始めたため、そこに気づいても、値上げはしませんでした。そのうち終わると思えばこそその頑張りでした。

家族を巻き込んだ貧困暮らしから抜け出すため、また何ヶ月も待ち続ける利用者のためにも量産と効率を考え、多くの企業に協力を求めましたが、思いは叶いませんでした。予想もしない数々の難難辛辛に会いながらも、利用者の喜びを目の当たりにすると、辞められなかったと言われま

す。

堀田氏の偉業は人々に感動を与え、社会の関心を引きました。テレビ、新聞などのメディアは元より、各種の企業さえも取材に來たり、講演の依頼があったり、シチズン・オブ・ザ・イヤー賞、吉川英治文化賞も受賞されました。そうして堀田氏の仕事が全国に知られる事となり、協力の声も届くようになりました。けれど、技術を要する製作だけは相変わらず孤軍奮闘の日々。「頼られる限り、身の続く限り」と、奥様との二人三脚で頑張っておられます。

—支援コンサート— 私は「童謡文化の継承」を目標に、音大に入学しました。在学中に松田トシ先生の門を叩き、童謡を学び、後に後進の指導、合唱団講師、施設訪問等ですべて童謡に携わってきました。

平成3年の初めての支援コンサートは、歌仲間、児童合唱団と共に童謡三味のコンサートでした。その後、器楽もとり入れて多様なステージを企画する事も、楽しみの一つとなりました。そして支援金は少額でも、堀田家の財政は、製作のための材料費や、食費さえ欠く事もあって、その都度役立ち、感謝されてきました。

私は堀田氏から実に多くを気付かされ、教えられてきました。さらに支援コンサートを中心に音楽活動も広がり、今日まで止まることなく続けて来られました。私こそ、堀田氏には深く感謝しております。

略歴

- 1967年上野学園大学音楽学部教育学科を卒業。
- 日本歌曲を故奥田良三氏、童謡を故松田トシ氏に師事。
- 童謡文化継承を宗として活動し、童謡音楽教室を主宰、合唱団の講師として指導を行っている。
- 日本音楽舞踊会議会員。
- 1991年、障害者のひとり一人の希望に合わせた自転車を製作する堀田健一三さんのために支援コンサートを主催。

■2015年掲載 小川 恵子さん

ふと、振り返ってみると、日本で生まれ育った年月より、ドイツでの生活の方が長くなってしまいました。あつという間の34年間。この間には、楽しかった事や辛かった事など、いろいろな経験がありました。この年月を、ひと言で表す事は簡単なことではありませんが、今現在こうして、心身ともに健康で仕事に従事出来ている事は、恩師の方々、友人たち、そして家族の支えがあつてのことと、心より感謝しています。

『コレペティートル』と呼ばれる職種が、現在の私の仕事ですが、日本では、まだ一般的に知られていない部門だと認識します。伝統あるヨーロッパでは、どの国においてもこの職種無しでは、オペラハウスも、音楽大学も成り立ちません。特に私が現在働いているようなオペラハウスでは、必要不可欠。常に陰の支えとなっている大切な部分です。その役割として、ある時は、歌手の譜読みや発音矯正の手助けをし、音楽への理解を深めるための助言をするオペラ歌手のための下稽古であり、その後の舞台稽古では、振り付けの練習の為にオーケストラの全パートをオペラまるごと一曲ピアノ一台で演奏し伴奏するのも大事な仕事の一部です。そしてまた、夜の公演では、団員の一人としてオーケストラの中で鍵盤楽器を演奏します。それは、オペラの中で必要になる鍵盤楽器全てを網羅し、ピアノはもちろん、チェレスタや、チェンバロ、オルガン、グロッケンシュピール、シンセサイザー等まで弾くこととなります。また、コレペティートルの仕事は、楽器を弾くことだけにとどまらず、ある時は、舞台裏のバンドのために指揮をする事や、疑似音を出すために音響用の小部屋に待機したり、天井裏の照明さんにキューを与えたりと、幅広い柔軟性も要求されます。

このような経験に基づく『コレペティートルの重要性、必要性』を、いつか機会があれば後輩の方々にお伝えしたいと強く願っています。とは言え、私もまだまだ終わりの無い、一生続く勉強の

途中にいます。音楽のみにあらず、外国に暮らすということ自体が、言葉のハンディ、気候の違い、カルチャーショックなどなど、まずは乗り越えなくてはならない課題が、沢山立ちまはだかっているのです。これからも上野学園の卒業生として誇りを持って勉強を続けていきたいと思っています。

子育ても終わり、ようやく精神的にも、時間的にも、ゆとりが戻って来ました。これからは、ドイツ、日本と遠く離れては居りますが、再び、恩師や旧友達との語らいの機会を出来るだけ持ていきたいと願っています。

皆様のご健康、今後のますますのご活躍を、お祈り致して居ります。

略歴

- 1970年 上野学園高等学校音楽科入学。
- 1973年 同校卒業。
- 1973年 上野学園大学音楽学部ピアノ専門にて梅谷怜子、遠山つや各氏に師事。
- 1977年 同大学卒業。
- 1981年 渡独 ドイツ国立マンハイム音楽大学ピアノソロ科入学。
ピアノをハンス テュールヴェヒター、歌曲解釈方及び歌曲伴奏法をハンス・ディーター ヴァーグナー、ピアノ室内楽をパウル ダンの各氏に師事
- 1982年 ドイツ、オーストリア両国によるGEDOK国際音楽コンクールのフルートとピアノのデュオ部門で優勝。ドイツ、オーストリア各7都市に於いてリサイタルを開く。その後、単独でもスペインでのコンサートにも伴奏者として招聘される。
- 1984年 レンク（スイス）においてマスターコースにてタマシュ ヴァシャーリ氏に師事し、さらに研鑽を積み、同地にてメモリアルコンサートに出演。
- 1984年 ドイツ国立マンハイム音楽大学 ピアノソロ科を首席にて卒業。
- 1986年 ドイツ国立マンハイム音楽大学 ピアノ室内楽科を首席にて卒業。
- 1986年 マンハイム一般大学に入学し、ゲルマニスティック（ドイツ語）ロマニスティック（イタリア語、フランス語）を専攻し語学をマスター、各国のオペラや歌曲の解釈を深める。
- 1986年 マンハイム音楽大学でコレペティートルとして講師を務め、歌手や管弦楽器奏者の後進の指導にあたる。

- 1989年 ストラスブールにてチェンバロ及びバロック音楽の解釈をアリーン・ジルベライシュ女史に師事。オリジナル多鍵フルートとのコンサートでは、ハンマークラヴィアも演奏。
- 現在は、主にマンハイム歌劇場コレパティートル及びマンハイム歌劇場オーケストラ専属ピアニストとして契約し、チェレスタ や チェンバロ、グロッケンシュピーゲル、オルゲル、ハーモニウム、シンセサイザー等、種々な鍵盤楽器を担当。レパートリーもオペラを初めとして、室内楽の分野でも幅広い演奏活動を続けている。

■2016年掲載 金井 早苗さん

良くある質問に「何故ハーブを始めたのですか？何故ジャズ？」

よくよく振り返ってみると生まれた時から音楽にどっぷり浸かっていました両親、姉が無類の「音」好き、特に父はクラシックからジャズまで様々なジャンルの音楽が気が付いてみると何時も家中に流れていました。その環境は姉を音楽専門学校に進ませる程の影響を与えたのです。両親は二人だけの姉妹を分け隔てなく育てることがモットーで将来助け合えるようにと私も姉と同じ道へと導かれました。ハーブを勧めたのは姉でした。

ヨセフ・モルナル教授に師事したのは高校受験前、教授との出会いでハーブと言う楽器の素晴らしさに触れることができ、ドンドン填まっていく自分がいました。大学卒業と同時に世の中はバブル期の幕明け、進路に迷っている暇も無くモルナル先生の助言もあり一流ホテル生演奏、いわゆるイーजीリスニングのジャンルへと踏み込んで行きました。

十数年弾き続けていたある日 BGM演奏に飽き足らず「歳を重ねてもハーブを弾いて行きたい」と強く感じる気持ちが湧いていると、偶然にいえいえ必然的だったのかも知れません「自分を偽らずビジュアルに拘らず、ずーっとカッコ良く演奏を続けたいならジャズを勉強したら？」とのアドバイスをうけたのです。ハッ！と目覚めてしまったのは言うまでもありません。幼い頃から慣れ親しんできたジャズ！ハーブで表現出来るのか

不安を抱きながらも心踊る気持ちで、助言をしてくれたベーシストの力を借り27年間続いたハーブ&ベースのデュオグループを結成したのです。当時はジャズハーピストというお手本が無かった為、独自に編み出した奏法や理論を必死に勉強しました。

ハーブでジャズと言う珍しさも加え周囲から興味を持たれ始めた中、アメリカで開催された「インターナショナルジャズポップスフェスティバル」にディナーショーアーティストとして招待されジャズ本場の地へ…演奏後スタンディングオープンションを受け私の驚きは言うまでもありません。助言して下さった方々への感謝の念で胸がいっぱいになりました。

今でも十数年続くスペースでレギュラー演奏をしながら思うのです。ジャズって何時も弾いているナンバーなのにオーディエンスの反応でサウンドが変わる！正に「生」の醍醐味ですネ！何を演奏したのではなく誰が演奏したのか…「そういう存在」を目指し金井早苗の響きをこれからも演奏して行きたいと思っています。

略歴

- ハーブをヨセフ・モルナル氏に師事。上野学園大学器楽学科ハーブ専門卒業後ジャズ・ポップスハーピストとして活躍する。ハーブの流れるような演奏法に加えハーピストでは珍しいアタックの強さ・リズム感・表情豊かなプレイ・独自に考案したテクニックは類がなくアクティブなパフォーマンスには定評がある。
- 皇后陛下御前演奏にて皇后様直々にお誉めのお言葉を頂いたのをはじめアメリカで行われた「第一回インターナショナル・ジャズ・ポップスハーブフェスティバル」に日本代表として招待されジャズ本場の地に於いてスタンディングオープンションを受けるなどその活動は日本のみならず海外のミュージシャンからも熱い注目を集めている。グランドプリンスホテル新高輪メインバー「あさま」・帝国ホテル「レインボールーム」・ホテルインターコンチネンタル東京ベイ「サンセットラウンジ」に於いて30年にも及ぶ間各ホテルのハウスミュージシャンとして新しい境地を確立した。

- 2014年より日本ハーブ協会主催「初」のジャズ・ポップスハーブコンサート『harp HARP harp』に於いてウッドベーシスト遠山晃司とデュオで出演、洗練されたグルーブ感とアクティブなパフォーマンスで好評を博す。又ソリストで三年連続出演 1989年(平成元年)から毎年行われているハーブの祭典『国際ハーブフェスティバル』では「メインコンサート」「グリーティングコンサート」「ファイナルコンサート」など国内外で活躍する一流ハーピストと共にソリストでゲスト出演観客を魅了する。
- ホテルイベント レストランディナーショー ライブハウス ラウンジショー 公共団体コンサート テレビラジオ出演など多方面で活躍中 また民法ハイビジョン第一回放送に参加している。
- 現在、ホテルインターコンチネンタル東京ベイ(サルーテ) 鉄板焼き店『木屋・虎幻庭』の演奏と音楽コーディネーターを務めている 日本ハーブ協会理事。

■ 2017年度掲載 桂 幸子さん

繋がりたいもの 繋がるもの

私は今年48年間務めた音楽教室ヴァイオリン科講師を辞める事にしました。こんなに長く務められたのは、健康であった事 責任感 何よりも教える事が好きだったからだと思います。そしてもう一つ30年間続けてきたユマ室内合奏団を終わりにする事にしました。小さい頃から共に学んだヴァイオリンの上延子先生門下のひとりに誘われ、13人からなる弦楽合奏団を結成、発足メンバーのひとりとなりました。この合奏団で演奏する事がどれだけ楽しかった事か、お互いを信じる事、思いやる事を学びました。初めから指揮者を持たない合奏団と決めていたので、話し合い、音で語りあいながらの音楽作りは充実感がありました。20年前より上野学園大学時代の恩師、ヴァイオリンの霜佐紀子先生がコンサートミストレスとして加わる事となり、私はその後一緒に恩師とアンサンブルが出来た幸せを今、感じています。

私が音楽の道を選んだのは母方の祖父大和田愛羅の存在が大きいです。祖父愛羅は明治18年生まれで東京音楽学校時代は信時潔氏、小松耕輔氏、山田耕筰氏達と同窓であります。特に祖父

愛羅は西洋音楽普及活動に参加、仲間と共に日本各地で演奏会を開き教育音楽に力を注ぎ、文部省唱歌策定に尽力しました。日本における西洋音楽の黎明期でありましょう。祖父愛羅は石橋蔵五郎先生と親交があった様で、上野学園大学音楽科創設の折には石橋益恵先生の元、講師として加わったと聞いています。祖父は私が上野学園高校入学前に倒れ、亡くなりましたので、自宅の祖父の姿しか知りません。戦後我が家の生活がまだ定まらない頃、私に歌でも、楽器でも何でも好きなものをやったらいい、といつも笑顔で孫の私を見守っていてくれました。

郷里である新潟県村上市歴史文化館には、寄贈した祖父愛羅ゆかりの品々が収められています。村上市の合唱団の方々、指導して下さる方々とは、今も交流を深めており音楽祭などにも参加しています。祖父愛羅28才の時に作曲し、文部省唱歌となった「汽車」の歌碑は村上駅前に立っており、市民の方々には「汽車」の歌が歌い継がれています。私の大学時代の友人、声楽家杵島純子さんは、40年前から愛羅の歌を歌い続け、ご紹介下さっており、彼女の澄んだ歌声は愛羅作品を歌うのに最も相応しい方と思っています。

今、私は色々な意味で大きな節目を感じています。5年程前から我が家の現役生徒OBとその友人から成る弦楽合奏団を結成し、私のユマ室内合奏団での経験を伝えたいと思っています。何時の日か祖父愛羅が作曲した曲も含めて、合唱団、合奏団と共に演奏会を開く事を考えています。尽きる事の無い音楽への情熱は祖父から繋がってる気がします。

略歴

- 上野学園高等学校音楽科器楽科卒業(S.40)。
- 上野学園大学音楽学部器楽学科ヴァイオリン専門卒業(S.44)。

大学音楽学部音楽学科より



上野学園大学音楽学部

学部長 柳澤 美枝子



恵声会の皆様には、お健やかにご活躍でいらっしやいましょうか。

本年度は、大学も理事長はじめ学長、学部長の顔ぶれがすっかり変わり、新しい学園の方向を打ち出して教職員一同、力を合わせて進む志を共有して頑張っております。

大学の授業をさらに一層、充実させるために、先生方も真摯に学生と向き合ってください、本当に有難いことと感謝しております。

特別公開講座のために、上野学園にいらしてくださる海外の演奏家や著名な教授の方々も年毎に増え、大変うれしいことです。毎年いらして下さるジュネーブ音大のジャン＝ジャック・バレ教授、ウィーン国立音楽演劇大学のステファン・アーノルド教授、加えて今年はチェコフィルの打

楽器奏者、クロウティル氏が来校され、素晴らしい講演をして下さいました。また、今年度から上野学園ピアノ・セミナーシリーズも始まり、9月にはロナン・マギル氏（イギリス）、この2月にはM. キルシュネライト先生（ドイツ・ロストック音楽演劇大学教授）をお招きして、リサイタルと公開レッスンの密度の濃いシリーズが本学からのピアノ教育として発信されました。恵声会員の皆様方の奮ってのご参加をお待ちしております。

本学学生の学内外での活躍も活発で、毎年、ラ・フォル・ジュルネ、岩崎邸、科学博物館コンサート、音大オーケストラ・フェスティバルへの出演や地元の役所関係の催しに協力するなど、多くの依頼を受け、喜んで参加させて頂いておりますし、国際的な活躍を目指す卒業生も次々と巣立っております。

学生達には音楽を共に学ぶ喜び、夢、そして上野学園に学んだことを支えにして、力強く羽ばたいてほしいと心から願っております。

今後とも、諸先輩の皆様には変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りたく心からお願い申し上げます。

大学短期大学部音楽科より



上野学園大学短期大学部

音楽科学科長 飯島 和久



この度大学短期大学部学長から命を受けて副学長を務めることになりました。学科長と兼務になります。

私が短大に勤めたのは草加校地時代でした。広い運動場、体育館、プール、テニスコート、カルガモ親子が泳いでいる池、新入生歓迎会は庭でバーベキュー等、英国のような素晴らしい環境でした。ひと学年130名の学生、今でも目に焼き付

いています。

その後学生が減少し上野校地へ移転、ひと学年9名という時代もありました。

私が学科長に就任してから学生人数を増やすことに力を注いでまいりました。しかし増やすためには魅力のある短大、選ばれる短大にならなければいけません。

昨年度は嬉しいことに入学者が大幅に増えました。特待を強化したこと、社会人入試に力を入れたことが大きな理由です。また、短大で音楽療法の資格を取得し、大学に三年次編入して教職課程を取得する強者も増えました。

今後副学長としてより良い短大を作ってゆくことをお約束いたします。

学園インフォメーション

○平成30年度 上野学園大学／上野学園大学短期大学部 各種演奏会のご案内

※大学主催公演は太字。それ以外は外部公演となります。

日付	曜日	演奏会名称	会場
5月19日	土	春の演奏会2018	講堂
6月20日	水	演奏家コース サマー・コンサート	講堂
9月8日	土	ウィンド・アンサンブル発表会	講堂
10月3日	水	芸劇&読響コンサート(仮称)	東京芸術劇場
10月20日	土	演奏家コース オータム・コンサート	講堂
10月27日	土	短期大学部第31回定期演奏会	講堂
11月16日	金	第7回合唱定期演奏会	講堂
11月24日	土	第67回オーケストラ定期演奏会	講堂
11月25日	日	第9回音楽大学オーケストラ・フェスティバル (桐朋学園大学・上野学園大学)	東京芸術劇場
12月5日	水	演奏家コース ウィンター・コンサート	講堂
2月21日	木	第6回ウィンド・アンサンブル定期演奏会	講堂
2月23日	土	短期大学部卒業演奏会	講堂
3月8日	金	大学音楽専攻科修了演奏会	講堂
3月9日	土	大学卒業演奏会	講堂
3月30日	土	第8回音楽大学フェスティバル・オーケストラ	東京芸術劇場
3月31日	日	第8回音楽大学フェスティバル・オーケストラ	ミュゼザ川崎シンフォニーホール

○平成31年度入学試験情報

平成30年度に実施する入試については、4月に詳細発表予定です。

卒業生の方のご子息・ご息女、並びに門下生が本学に入学される場合、入学金の減免制度がございます。

詳しくは入試広報部までお問い合わせください。

入試広報部：0120-186-234



オープンキャンパス 2018 年間スケジュール

3/25(日) 4/29(日) 6/17(日)
7/29(日) 8/26(日) 10/7(日) 11/25(日)

《開催時間》10:00～16:00 ※9:30 受付開始 (入退場自由) (服装自由) (ランチ付き)

○学部・学科説明 ○入試概要説明 ○コース・専門別説明会 ○受験対策講座(楽典・聴音・ソルフェージュなど) ○レッスン公開
○音楽療法体験授業 ○ミニ・コンサート ○保護者対象説明会 ○体験レッスン*事前予約制 ○個別相談・先輩と話そう

事前参加申込：本学Webサイトまたはフリーダイヤルより(当日の参加も可能)

体験レッスン

音楽大学への進学を希望する方を対象に
本学教員による体験レッスンを行っています。

- ・1回60分程度(レッスン料：無料)
- ・実施日 平日10:00～18:00/土曜日10:00～15:00

【申込み方法】*予約制

FAX 専用申込書、本学 Web サイト・申込みフォームまたは電話

音楽受験講習会

中学受験～大学受験を対象とした講習会を開催します。

夏期 7/31(火) - 8/3(金) 冬期 12/23(日) - 12/26(水)

専門実技、音楽基礎科目(楽典・ソルフェージュ)、副科ピアノ、
ワークショップ(グローバル教養コース)等を自由に選択し、
組み合わせ受講できます。

*詳細は本学ホームページをご覧ください。

上野学園ホームページ www.uenogakuen.ac.jp



資料請求・各種申込み・お問合わせ先 / 入試広報部(直通) ☎ 0120-186-234

ホールからのお知らせ

上野学園 石橋メモリアルホールより共催公演のご紹介

ヴィオラスペース2018 vol.27 第4回東京国際ヴィオラコンクール

恵声会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

石橋メモリアルホールの様々な公演の中から、今回は株式会社テレビマンユニオンとの共催公演「ヴィオラスペース2018 vol.27 第4回東京国際ヴィオラコンクール」をご紹介します。

東京国際ヴィオラコンクールは、ヴィオラ音楽の祭典「ヴィオラスペース」の一環として開催されるアジア唯一の国際的なヴィオラ単独のコンクールです。

1992年、世界的ヴィオラ奏者・今井信子（本学特任教授）の提唱により、「ヴィオラの礼賛」、「優れたヴィオラ作品の紹介と新作発表」、「若手の育成」の3つをコンセプトに、「ヴィオラスペース」がカザルスホールでスタートしました。2003年には会場を紀尾井ホールに移し、2005年には大阪、2006年には名古屋と開催地を拡げました。

現在では、東京、大阪、名古屋で「若手演奏家のための公開マスタークラス」と「コンサート」（タメステイ企画）を開催する約1週間のシリーズへと発展、東京公演のコンサートでは毎年皇太子殿下の行啓をいただいています。

2013年以降の東京公演は石橋メモリアルホールで開催しており、ヴィオラの音域はホールの響きと相性がいいと好評です。

「ヴィオラスペース」の活動の一環として、2009年に創設されたのが「東京国際ヴィオラコンクール」です。日本から世界へ、世界から日本へ、ヴィオラを通じた文化交流を目的としています。これは3年に1度開催され、入賞者は翌年以降のヴィオラスペースへの出演が約束されます。コンクールの期間中にはワークショップやコンサートが開催され、ヴィオラの多彩な魅力と可能性を追求するという、世界的なフェスティバルです。

前回のコンクールは、15の国と地域から62名の若手演奏家が第1次審査に挑みました。今回も世界中の若きヴィオラ奏者が集う熱気ある8日間になるでしょう！

2018(平成30)年5月26日(土)～6月3日(日)

5月26日(土)～6月2日(土) 第1次審査、第2次審査、本選①②、ワークショップ①②
5月31日(木)、6月1日(金) ガラ・コンサートⅠⅡ
6月3日(日) 入賞記念コンサート

上野学園 石橋メモリアルホール 公演予定 (主催公演・共催公演・学園関係)

東京・春・音楽祭 —東京のオペラの森2018—	特別協力公演			
副島理沙オーボエ・リサイタル～第11回 国際オーボエコンクール・軽井沢	奨励賞受賞記念	4 / 1 (日)	15:00	
ウェールズ弦楽四重奏団～宮田大(チェロ)を迎えて		4 / 9 (月)	19:00	
アンサンブル・カンターレ 第5回演奏会	指揮=中島章博 ピアノ=島田彩乃	4 / 15 (日)	14:30	
上野学園中学校・高等学校 中二、高二演奏会		5 / 12 (土)		
上野学園大学 春の演奏会2018		5 / 19 (土)	14:00	
ヴィオラスペース2018 vol.27 第4回東京国際ヴィオラコンクール	共催公演	5 / 26 (土)～6 / 3 (日)		
恵声会 第35回定期演奏会		6 / 9 (土)		
上野学園大学 演奏家コース サマー・コンサート		6 / 20 (水)	17:40	
干野宜大ピアノ・リサイタル		9 / 16 (日)		
上野学園中学校・高等学校 桜鏡祭演奏会		9 / 22 (土)・23 (日)・祝		
上村かおり ヴィオラ・ダ・ガンバリサイタル(仮称)		10 / 6 (土)	14:00	
ランチタイム・コンサート	主催公演	4 / 18 (水) 5 / 23 (水) 6 / 27 (水) 7 / 25 (水) 9 / 12 (水)	各回12:10開演	入場無料

各公演詳細、他の公演情報はホームページにて www.ishibashimemorial.com

上野学園 石橋メモリアルホール TEL03-3843-3043 FAX03-3843-6254

音楽教室からのお知らせ

ホームページを開設しました

上野学園音楽教室

検索 

受験コース、一般コース、研究コースと幅広い方々のニーズにお応えするコースを設けております。また、早期からの「音感」教育を重視した「KIDSミュージックスクール」も設置しています。

お問い合わせ先：上野学園音楽教室事務局 03-3842-1021(代表)

恵声会本部活動報告

1 会議開催

平成26年度

- 4月5日(土) 幹事会(新年度顔合わせ)
- 5月23日(金) 幹事総会(新幹事を迎えて)
- 7月8日(火) 運営委員会
- 9月17日(水) 運営委員会
- 11月27日(木) 運営委員会
- 2月19日(木) 運営委員会
- 2月28日(土) 本部支部懇談会

平成27年度

- 4月4日(土) 幹事会(新年度顔合わせ)
- 5月21日(木) 幹事総会(新幹事を迎えて)
- 7月7日(火) 運営委員会(新役員を迎えて)
- 9月18日(金) 運営委員会
- 11月26日(木) 運営委員会
- 2月4日(木) 運営委員会
- 2月28日(日) 本部・支部懇談会

平成28年度

- 4月6日(水) 幹事会(新年度顔合わせ)
- 4月20日(水) 臨時運営委員会
- 5月19日(木) 幹事総会(新幹事を迎えて)
- 7月21日(木) 運営委員会
- 7月24日(日) 臨時本部支部会議
- 9月15日(木) 運営委員会
- 10月20日(木) 臨時運営委員会
- 11月10日(木) 運営委員会
- 2月2日(木) 運営委員会

平成29年度

- 4月6日(木) 幹事会(新年度顔合わせ)
- 5月20日(土) 幹事総会(新幹事を迎えて)
- 7月5日(水) 運営委員会(新役員を迎えて)
- 10月6日(金) 運営委員会
- 11月24日(金) 運営委員会

2 演奏会について

平成26年度

- 6月14日(土) 創立110周年記念募金演奏会として第33回定期演奏会
- 11月3日(祝) 新人演奏会(平成24・25・26年卒業の会員)櫻樹祭の中で開催(主催)

平成27年度

- 11月8日(日) 新人演奏会(平成25・26・27年卒業の会員)櫻樹祭の中で開催(主催)
プティ・コンセール(櫻樹祭の中で開催)

平成28年度

- 6月11日(土) 第34回定期演奏会(主催)
- 11月6日(日) 新人演奏会(平成26・27・28年卒業の会員)櫻樹祭の中で開催(主催)
プティ・コンセール(櫻樹祭の中で開催)
- 1月15日(日) グラン・コンセール

平成29年度

- 11月5日(日) 新人演奏会(平成27・28・29年卒業の会員)櫻樹祭の中で開催
プティ・コンセール(櫻樹祭の中で開催)

3 発行物

平成26年度

- 9月1日(月) 恵声会会報27号発行

4 募金活動への協力について

平成26年度

- 11月2日(日)、3日(月祝) 櫻樹祭における募金バザーの手伝い
- 12月6日(土) “歌舞伎観劇会”(夜の部)

平成27年度

- 11月7日(土)、8日(日) 櫻樹祭における募金バザーの手伝い
- 12月6日(日) “歌舞伎観劇会”(夜の部)

平成28年度

- 11月5日(土)、6日(日) 櫻樹祭における募金バザーの手伝い

平成29年度

- 11月4日(土)、5日(日) 櫻樹祭における募金バザーの手伝い

5 その他

平成26年度

- 3月26日(木) 大学・同短期大学部の新卒業生に恵声会案内カード配布、記念品贈呈

平成27年度

- 3月26日(土) 大学・同短期大学部の新卒業生に恵声会案内カード配布、記念品贈呈

平成28年度

- 3月17日(金) 大学・同短期大学部の新卒業生に恵声会案内カード配布、記念品贈呈

「恵声会定期演奏会」のお知らせ

第34回恵声会定期演奏会を平成28年6月11日(土)に開催いたしました。
今回は、ピアノ、声楽、クラリネット、合唱の9組の方々が出演して下さり、盛会のうちに終わることができました。
次回は、平成30年6月9日(土)の開催を予定しております。
詳細は、11ページをご覧ください。(定期演奏会係 藤井陽子、鈴木圭子)

会報係より

全国にいらっしゃる卒業生の皆様と3年に一度繋がれることを喜びに、発行しております。毎回ご協力下さる各支部の皆様、学園の諸先生方に感謝申し上げます。
次回の発行は、2021年を予定しております。
(会報係 段田尚子、安部可菜子、木津萌香)

名簿係より報告とお願い

恵声会会員名簿は、平成13年度版が最新版です。
今後、冊子の作成、発行の予定はございません。
会員の皆様の個人情報、学校に厳重に保管してあります。
尚、名簿に関する変更(郵便番号・住所・氏名・電話番号)、ご逝去の届出をお送りくださる場合にはファックスまたは、郵送にて名簿係まで、お知らせくださいますようお願いいたします。

■送付先

〒110-8642 東京都台東区東上野4-24-12
上野学園大学/
上野学園大学短期大学部恵声会 名簿係宛
Tel: 03-3842-1021 (代)
Fax: 03-3843-7548
皆様のご協力をお願い致します。
名簿係 菊池由佳・クランベ久保万里子

「恵声会新人演奏会」のお知らせ

恵声会では、上野学園大学音楽学部・同短期大学部音楽科を卒業した会員による新人演奏会を行っております。
今年は、平成28年、29年、30年に卒業した会員が出演いたします。

皆様のご来場お待ちしております。

- 日時 平成30年11月4日(日)
午後5時開演予定
- 場所 上野学園 石橋メモリアルホール
- 入場料 無料
- 参加料 変更の可能性があります。参考資料として平成29年の参加料は15,000円。ホールでのリハーサル代を含む。
(新人演奏会係 山下百恵、片倉みな美)

ホームページ係より

卒業生の皆様と学園を結ぶ役目を担って、学園のバックアップを頂き開設した恵声会ホームページですが、都合により休止させて頂き、大変ご不便をお掛けしております。この春に新しいヴァージョンで再開すべく、準備を進めております。恵声会の動きや会員の皆様の様子を随時お伝えして参りますので、どうぞよろしくお願いたします

恵声会ホームページ

<http://www.uenogakuen.ac.jp/keiseikai/>

(ホームページ係 伊藤久恵、榎本二実子)

平成27年度・28年度

上野学園大学音楽学部・同短期大学部音楽科

恵声会役員

会長	庄 智子
副会長	白井 雅子
監事	吉田真知子 浅香 郁子
	(責任者) (運営委員)
書記	根岸 奏好 浅井 愛
会計	政岡知恵子 伊丹 唯
会報	段田 尚子 安部可菜子
名簿	菊池 由佳 クランベ久保万里子
音楽会(定期)	藤井 陽子 鈴木 圭子
(新人)	北村香緒里 矢ノ倉あや
通信連絡	佐野 淑美 井田 美幸
ホームページ	平石 愛美 伊藤 久恵
櫻樹祭プログラム「窓」	梅谷 令子 石井み予乃

*役員任期は2年

平成29年度・30年度

上野学園大学音楽学部・同短期大学部音楽科

恵声会役員

会長	庄 智子
副会長	白井 雅子
監事	吉田真知子 浅香 郁子
	(責任者) (運営委員)
書記	根岸 奏好 浅井 愛
会計	政岡知恵子 伊丹 唯
会報	段田 尚子 安部可菜子
名簿	菊池 由佳 クランベ久保万里子
音楽会(定期)	藤井 陽子 鈴木 圭子
(新人)	山下 百恵 片倉みな美
通信連絡	井田 美幸 長谷川三千子
ホームページ	伊藤 久恵 榎本二実子
櫻樹祭プログラム「窓」	石井み予乃

*役員任期は2年

学園職員だより

■ご退職

H27.03.31	高川 進作	特任教授	(教科教育法)	H28.03.31	田口 千晴	非講師	(ピアノ)
H27.03.31	工藤 重典	客員教授	(フルート)	H28.03.31	長谷川 玲	非講師	(ピアノ)
H27.03.31	安田結衣子	非講師	(ソルフェージュ)	H28.03.31	立花 千春	非講師	(フルート)
H27.03.31	金子 哲理	非講師	(音楽マネジメント)	H28.04.23	有賀 智美	非講師	(オーボエ)
H27.03.31	野村 久康	名誉教授	(美学)	H28.07.11	下野 竜也	教授	(指揮)
H27.12.08	牧 三都子	名誉教授	(声楽)	H28.11.05	山口 博史	客員教授	(音楽基礎科目)
H28.03.31	瀧川 淳	講師	(音楽教育)	H29.03.13	横山 幸雄	教授	(ピアノ)
H28.03.31	前田 幸康	教授	(チェロ)	H29.03.31	三島 暁子	非講師	(日本音楽史)
H28.03.31	田畑 貞壽	特任教授	(環境学)	H29.03.31	田部 京子	教授	(ピアノ)
H28.03.31	吉野 直子	特任教授	(ハーブ)	H29.03.31	河口 道朗	特任教授	(教職論)
H28.03.31	松井 一馬	非講師	(英語)	H29.03.31	向井 大策	講師	(音楽学)
H28.03.31	高橋 正夫	非講師	(カウンセリング概論)	H29.03.31	松本 健司	客員教授	(クラリネット)
H28.03.31	水崎 富美	非講師	(音楽教育)	H29.03.31	手嶋眞佐子	特任教授	(声楽)
H28.03.31	南方 総子	非講師	(オーボエ)	H29.03.31	内野 允子	非講師	(音楽学)
H28.03.31	三原 隆正	非講師	(オーボエ)	H29.03.31	吉田由紀子	非講師	(ピアノ)
H28.03.31	伊藤 圭	非講師	(クラリネット)	H29.03.31	森田佳代子	非講師	(音楽基礎科目)
H28.03.31	奥泉 貴圭	非講師	(チェロ)	H29.03.31	勝俣 泰	非講師	(ホルン)
H28.03.31	古川 信哉	非講師	(チューバ)	H29.04.20	村上 曜子	教授	(声楽)
H28.03.31	鈴木 祥子	非講師	(ピアノ)	H29.04.30	西尾 洋	准教授	(音楽基礎科目)

■ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

H27.01.21	吉本 睦子	非講師	(ピアノ)	H28.10.09	島塚 光	教授	(声楽)
H27.03.17	野村 久康	名誉教授	(美学)	H28.10.05	山口 博史	客員教授	(音楽基礎科目)
H27.04.19	甲斐真紀子	非講師	(ピアノ)	H29.01.24	石橋 裕	学園長、元理事長、 元大学、短大、 前中高校長	(文学、英語)
H27.09.28	阿部しづゑ	非講師	(クラリネット)	H29.04.03	竹内 孝治	助教授	(ピアノ)
H27.12.08	牧 三都子	名誉教授	(声楽)	H29.10.17	川中なほ子	非講師	(西欧思想)
H27.12.18	城 房枝	助教授	(ピアノ)				
H28.04.11	立花 千春	非講師	(フルート)				

編集後記

3年に一度、卒業生の皆様にお届けする会報の発行が半年以上遅れましたことをお詫び申し上げます。平成29年1月24日、恵声会名誉顧問 石橋裕学園長先生がご逝去され、馬場奈津子さんに同年6月7日に開催されました先生を偲ぶ会についてご執筆頂きました。

ご挨拶文を頂きました、理事長 石橋香苗先生並びに諸先生方、恵声会各支部の活動報告をお知らせ頂いた支部長、その他、多くの皆さまのご協力頂き、第28号発行に漕ぎつきました。心より御礼申し上げます。会報が母校と卒業生の皆様との橋渡しに少しでも貢献出来ましたら幸いに思います。(N.T.)